

第3回 特定複合観光施設（IR）に関する有識者懇談会 開催概要

開催日時：平成30年10月17日(水) 9:30～11:40
開催場所：第2水産ビル3階3S会議室

【議題1 第2回のテーマに関する方向性の確認】

- 事務局より、「優先すべき候補地について」に係る検討資料（別添参考資料1）を説明し、意見交換を実施。

《主な意見》

- ・ 国内他地域との競争力という面では、苫小牧が有利ではないか。
- ・ IRの効果を道内全域に波及させることを考えると、苫小牧が相応しいのではないか。
- ・ 事業用地のオープンアクセスは、公平性を担保する上で重要であり、現時点で苫小牧市の準備が進んでいる。早急に候補地を決めて準備をしないと全国的な競争に勝ち残れないのではないか。
- ・ 震災からの復興にIRがどのように寄与できるかという視点も加えるべき。
- ・ 周辺地域への波及を意識して効果測定を行うこと、震災からの復興に寄与するような視点も意識して進めていくべき。
- ・

【議題2 社会的影響対策の方向性について】

- 事務局より、社会的影響対策の方向性について説明（別添参考資料2）後、ギャンブル依存の専門家である2人の構成員から依存対策等について説明をいただいた上で、意見交換を実施。

【構成員説明要旨①】

- ・ ギャンブル依存は、経済面を中心とする生活の問題であり、問題の段階に応じたきめ細かい対策が必要。
- ・ ギャンブル依存の発生原因や度合いは一樣ではなく、相談窓口における個別的なアセスメントが重要。
- ・ 行政機関の相談窓口はアセスメント機能が不足しており、機能を高めていく必要がある。

- ・ 依存症においても地域ぐるみでサポートする体制が重要。ギャンブル以外の楽しみを見つけ出すためには、お金や時間の使い方の啓発に加えて、自然、芸術、スポーツ等地域の文化を育てることも重要。

【構成員説明要旨②】

- ・ カジノだけではなく、ギャンブル全体を包括して対策を考えなければならない。
- ・ 重度のギャンブル依存は全体の1～3%程度、何らかの問題がある人が5～10%程度。依存症であるかないかということではなく、予防対策から軽度・重度へと時系列で戦略的な対策を講じることが必要。
- ・ ギャンブル依存問題は、地域の公衆衛生の対策として考えるべきであり、IRを設置する前から対策を開始しなければならない。教育や福祉など、地域における社会資源の役割の再配置等が重要。
- ・ 国は世界最高水準と言うが、日本の対策を世界最高水準という研究者は世界にいないと思われる。国はギャンブルの種類ごとに管轄が違い、横串がないので、地方で率先して連携してやっていくべき。

《主な意見》

- ・ ギャンブル等依存症対策は、どこまで体系的に取り組むことができるかが重要。
- ・ IR設置前後で依存症の実態がどう変化したのかわかるように、北海道内のギャンブル等依存症の状況について科学的な調査を行って把握するべきではないか。
- ・ IR導入地域におけるギャンブル等依存症の割合等を把握し検証することが必要。マイナスの影響は最小化することが重要。
- ・ IRの議論をきっかけに、モデル的にギャンブル依存問題について地域で対応できる形を作って欲しい。都会よりも、顔の見える地域の方が動きやすいのではないか。
- ・ 対策については、海外でも様々な考え方があるが、あまり極端にモデル化しすぎず、地域の文化に合ったものを検討していくべき。

以上